

# 関東大震災の津波

相模湾・相模灘



## 関東大震災(1923年)

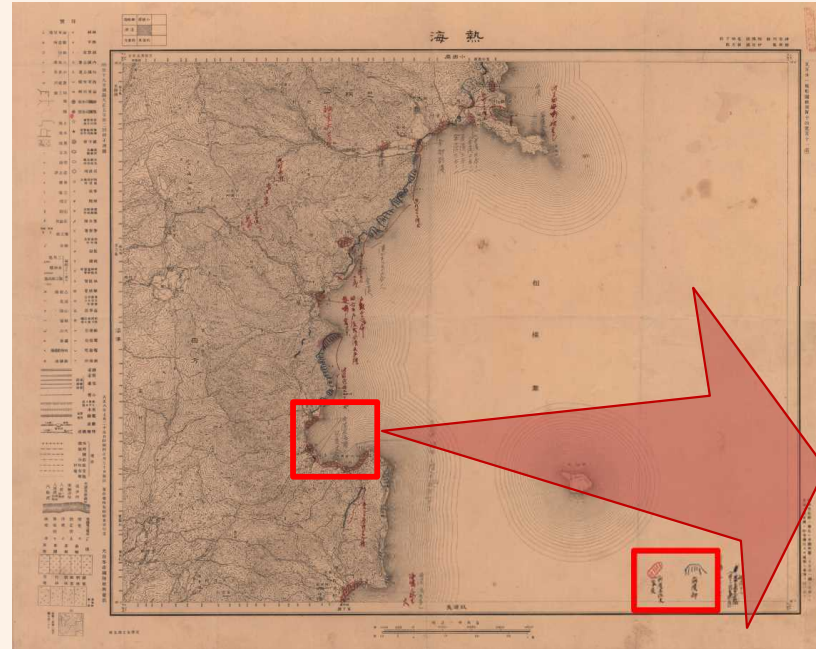
規模: マグニチュード7.9  
 死者・行方不明者: 10万5千余  
 住居全潰: 10万9千余  
 半潰: 10万2千余  
 焼失: 21万2千余  
 ※理科年表2023(国立天文台 編)による。

地理院地図の自然災害伝承碑(津波)は相模湾や相模灘に広がっているよ。

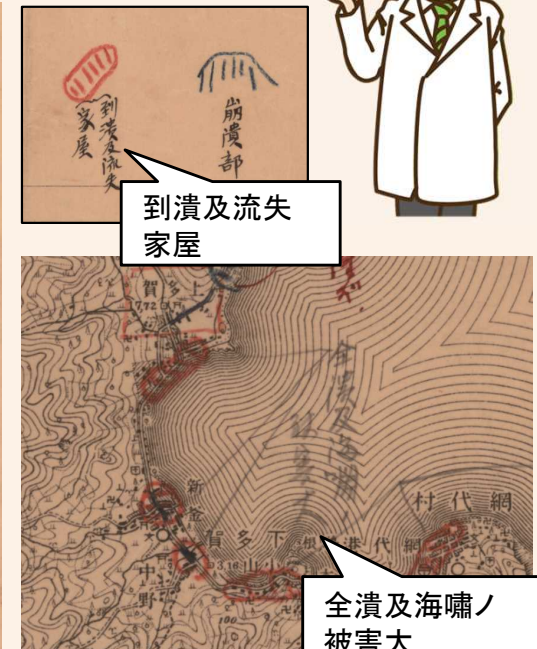
震災地応急測図原図には、被災状況なども書かれているんだ。



地理院地図で見る自然災害伝承碑(津波)の分布



震災地応急測図原図「熱海」



到潰及流失  
家屋

全潰及海嘯ノ  
被害大

### ① 震災記念碑



翌大正13年1月15日の丹沢地震でも被害を負った。

### ② 慰霊碑



津波の高さは電柱を越えていたとされ、浜辺で遊んでいた子供を襲った。

### ③ 大正12年関東大震災つなみ浸水地点



沿岸を高さ約5m(石碑の地点は標高4.7m)の津波が二度にわたって襲った。

次のスライドに解説があるよ

### ④ 大正十二年関東大震災つなみ浸水点



八幡野地区では5m強(石碑の地点は標高5.7m)の津波が襲ってきた。

### 震災地応急測図原図について

国土地理院の前身機関である陸地測量部は、発災直後(9月6日~15日)に現地調査を行い、関東大震災の被害状況を記載した「震災地応急測図原図」を作成しました。

この地図は、①焼失区域、②倒壊家屋又は損壊地物、③避難所及び人員等を調査、図示しています。震災後、2週間という非常に短期間で作成した現在の「災害現況図」の先駆けである「震災地応急測図原図」は国土地理院のウェブページである古地図コレクションで閲覧することができます。

※古地図コレクションから抜粋



古地図コレクション





## ③ 関東大震災(1923年)

大正12年(1923)9月1日午前11時58分に発生した関東大震災では、強い揺れにより家屋や橋梁が倒壊し、沿岸を高さ約5m(石碑の地点は標高4.7m)の津波が二度にわたって襲った。旧宇佐美村では家屋全壊33戸、半壊67戸、家屋流失111戸の被害となった。碑はそのときの津波到達点を示している。



大正12年関東大震災つなみ浸水地点

地理院地図の自然災害伝承碑の伝承内容から災害の状況を見てみよう

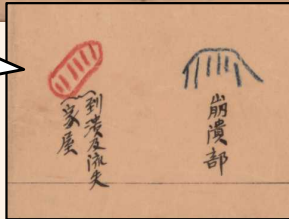
伝承内容に記載されている津波の高さを色別標高図で確認してみよう。

自然災害伝承碑の分布している地点は、震災地応急測図原図で被害のあった範囲とほぼ一致していることがわかるね。

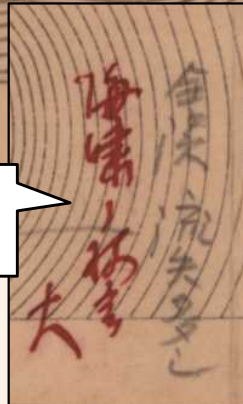


大正12年関東大震災つなみ浸水地点

到潰及流失家屋

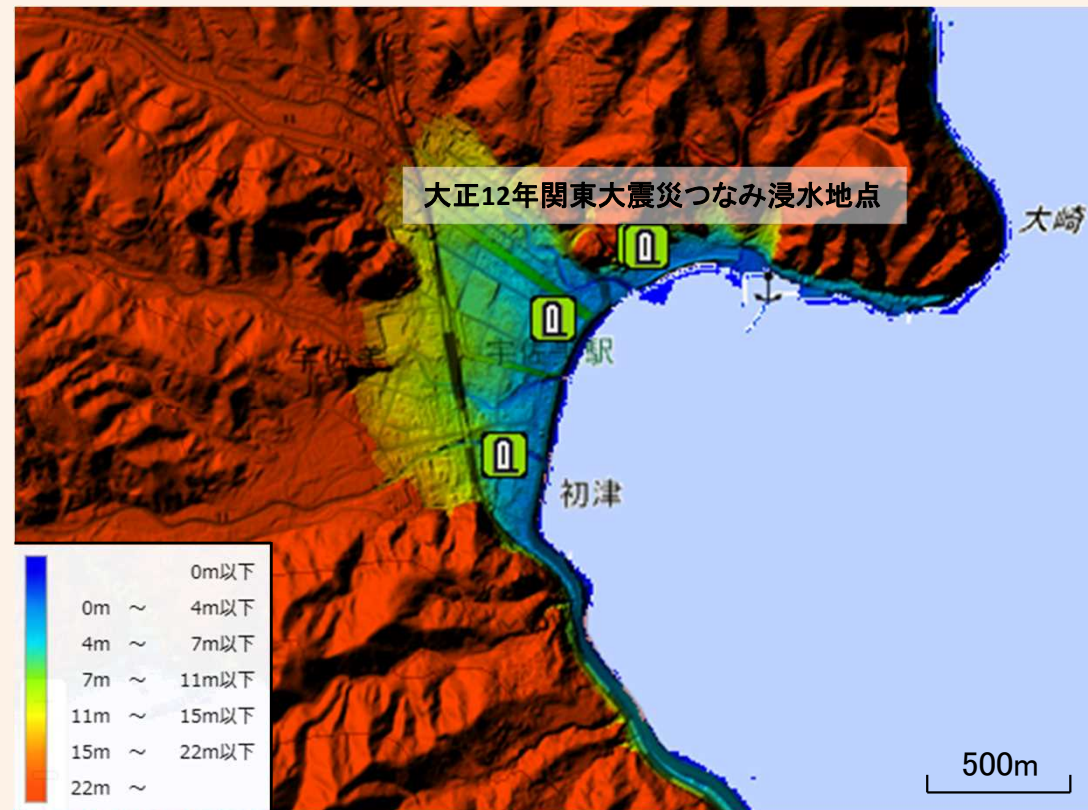


全潰流失多シ  
海嘯ノ被害大



震災地応急測図原図「熱海」

※自然災害伝承碑は概略位置



大正12年関東大震災つなみ浸水地点

色別標高図